

2020年7月30日

つくば市教育長 森田 充 様

つくば・市民ネットワーク

代表 瀬戸 裕美子

新型コロナウイルス感染対策下での学校生活についての要望

コロナ禍において、学校においても正解のない対応が迫られている中、教育現場で日々取り組んでくださっている先生方に感謝の意を表します。また、多くの市町村が夏休みを10日～2週間前後とする中、つくば市においては、3週間を確保して頂いたことに賛同いたします

さて、3月～6月にわたる長期の休校は、学校のあり方を考えるきっかけとなりました。学校は、単に授業や勉強をする場所というだけでなく、友達や先生と協力し合ったり反発し合ったりする中で対人関係の経験値をあげる場所であったり、学校行事や部活動に取り組む中で共通のテーマに挑戦する体験を培う場所でもあります。それらが、学校再開後にはさらに大事にされるものと期待していますが、現状では授業時間の確保が優先されたり、コロナ感染拡大により多くの行事が中止の方向になっています。今まで体験したことがないような災いが降りかかる中、保護者も先生も子ども達も安全・安心ばかりに目が向きがちでさまざまな体験の機会が奪われてしまっていないかと、大変危惧しています。

例えば感染予防対策として、地域でも学校においても、マスクの常時着用が求められる状況となっています。しかしこれから益々暑くなる中、屋外や運動時のマスク着用は熱中症等のリスクを増大させますので、子どもでも状況を判断して適宜マスクを外す、付けると言った指導をお願いしたいと思います。

これらの状況を鑑み、以下、要望いたします。

1. 子ども達の心身の健康・成長を最優先にした学校生活とは何か、を教師だけでなく子ども達にも考えさせ、自ら意見を言えるような雰囲気づくりや、配慮を行う
2. マスクを外して良い場面を明らかにし(例えばしゃべらない時。または運動時など距離が保てている時)、適切に着脱できるよう指導する
3. マスク着用により教師の表情が見えないことで、子どもが不安になったり判断しにくくなるため、授業時はなるべくマウスシールド等を着用する。
また、換気をしっかり行うように徹底する。
4. 宿泊学習の一律中止の代替には、バスでの長距離移動を伴う県外の学習ではなく、市内でなるべく短時間で移動をし、体験学習の時間を長く確保できる機会にすること。また、来年度以降は感染状況を検討した上で、筑波山登山と地元施設への宿泊や、茨城県内での宿泊学習、学校の体育館で防災キャンプ等の実施を検討する。遠足も、近くの公園で行うなど体験の時間をなるべく長く確保する工夫をすること
5. 凶工や音楽の時間が減ったり、プール学習が中止になるなど、通常日課でないことに抵抗を感じる児童生徒が「学校は楽しい場所」と感じることをできるように、教室以外の居場所を確保する。図書室や校長室など、教師等の見守りのもと、自らやりたいことができるような環境が良いと考える。

以上